

皆様、お疲れ様です。フラッスリー・藤瀬です。
この度のワイン課通信はボルドー地方の格付けについて書かせていただきます。
多くの方がすでにご存知の事とは思いますが、新しく入って来られた方もいらっしゃるので、改めて書かせていただきます。
最後までお読み下さると幸いです。

まずは、右岸《サンテミリオン》地区の格付けです。
1955年に実施され、86年からは10年毎に更新されています。

格付け上位から

- ①サンテミリオン・フルミエ・グラン・クリュ・クラッセ(さらに細かくAにはオーゾンヌとシュヴァル・フラン、Bには11のシャトー)
- ②サンテミリオン・グラン・クリュ・クラッセ
- ③サンテミリオン・グラン・クリュ
- ④サンテミリオン

の格付けとなっています。

メドック地区の格付けと大きく異なるのは、AOCの認定を受けなければならない事。例えば、畑を買い足すにも、申請と許可が必要となる。(86年の見直しでは某シャトーが無許可で買い足しを行ったため、降格の大きな要因となる、という事態を招きました)。

これは法律に基づいた格付け故の規制というのはもちろんの事、シャトーの品質を維持するに当たって、寄与するところ大となっています。

次に、同じく右岸の花形産地のひとつ《ポムロール》地区です。
こちらには何らかの組織や法律の上に成り立つ正式な形での格付けはありません。ただ、地元での古くからの評判や評価・仲買人などの評価・消費者の評価などから、あくまでも〈慣習的〉な格付けはあり頂点には、かのペトリュスが位置しています。

また、今後この地区で正式な格付けがなされるか、については〈なされないだろう〉というのが専門家、シャトー関係者の見解。

というのも、格付けを望む声自体が上がらないからだといえます。それは地元の方たちの気質とまた彼らが10haに満たないシャトーが殆どのこの地区の、生産力を十分に理解しており、質の維持にも高い意識をもっている事の表れ、とされています。

そして、甘口ワインの代名詞《ソーテルヌ》です。

こちらは、

①特別第一級(かのシャトー・ティケムのみ！)

②第一級

③第二級

の三等級が格付けされています。1855年に格付けされ、更新はなく現在に至っています。

メドックと並ぶ左岸の銘醸地《グラヴ》の格付けです。

こちらは1953年に格付けがなされ、59年に見直しが行われ現在に至っています。

クリュ・クラッセ(特選銘柄)がそれです。興味深いのはこの地では、古くから白ワインの生産が盛んであるため、白と赤の両方を造るシャトーが多いことから、

・白のみが認められたもの

・赤のみが認められたもの

・両方共に認められたもの

がある点。

最後に、真打登場！？ メドック地区の格付けです。

もっとも有名な格付けであり、最上位のクリュ・クラッセは一級から五級に別れ、その数は60に及ぶ。(唯一例外的にグラヴ地区から選ばれた一級のオー・フリオンを含めると61)

殆どのシャトーが、オー・メドックの中でも銘醸村に位置している。そもそもは、1855年、パリ万博開催に当たり、時の皇帝・ナポレオン3世の命によってボルドー商工会議所が主導する形で生まれたもの。

基準となったのが、当時の仲買人たちの評価、フラインドテイスティング、

そしてなにより、当時の流通価格でした。その後、たった一つの例外(73年にムートン・ロートシルトが二級から昇格)を除いて、まったく手つかずのまま、「格付けの存在意義」と「格付けの機能不全」という大命題を宙に浮かせたまま、《聖域》は現在に至っています。

もちろんその間、見直しの必要が問われ、また今なお問われてきました。

その際、大きなテーマとなるのが、〈シャトー(畑)の所有者が変わること〉と〈シャトーの畑が変わること〉でした。前述のようにサンテミリオンと違い、原則的には畑の増減・売買に規制のないメドックでは、すべてのパーセルが均質でないという前提を飛び越えて、また所有者が変われば、その資力、意識、情熱、運営(経営)方針も一様ではないという摂理をも飛び越えて、

品質の維持・格付けの信頼性が担保できるのか、が問われたのです。

もちろん、現在まで、セカンドワインやサードワインの導入や、技術の進歩などによってシャトーワインの質は底上げがなされてきたことも事実としてあります。ただ、《聖域》にあぐらをかく者なきや、の懸念もまたあり続けています。

そんな中で、新しい枠組みクリュ・フルジョフが設置されました。クリュ・フルジョフ・エクスプレシユネルを筆頭に、数百のシャトーが格付けされたものの、

つい近年、この枠組みも廃止され、07ビンテージからはエチケットにこの文字をみることも、なくなります。ワイン関係者、ワイン愛好家に激震とまではいかないまでも、少なからぬ驚きをもたらしたこの決定は、どのような影響をもたらすのでしょうか。これまでのように、クリュ・クラッセの等級によらず、あくまでも現在の品質によって、適正な評価が、〈実勢〉というかたちでなされて行くのか、あるいは《聖域》の堅牢ぶりが浮き彫りになるのか、私も注意深く見守ってゆきたいと思います。